

第32回つくば国際音楽祭

名門オーケストラの精鋭12名によるウィenna・ワルツの決定版!

# ウィーン交響楽団 ヨハン・シュトラウス・アンサンブル New Year Concert 2017

アントン・ソロコフが聴かせる銘器ゲアルネリの鮮烈なる響き!



*Vienna Johann Strauss Ensemble*

© www.dujmic.com



アントン・ソロコフ  
(指揮・ヴァイオリン/ウィーン交響楽団第一コンサートマスター)

クラウディア・ゲーベル  
(ソプラノ)

- シュトラウス2世: 喜歌劇「くるまば草」序曲
- レハール: 喜歌劇「メリー・ウイドウ」より「ヴィリアの歌」
- ランナー: ワルツ「求婚者」op.103
- シュトラウス2世: ボルカ・シュネル「ハンガリー万歳!」op.332
- シュトラウス2世: 喜歌劇「ごもり」より「侯爵様、あなたのようなお方は」
- シュトラウス2世: ワルツ「芸術家の生活」op.316
- チャイコフスキー: バレエ「くるみ割り人形」より「花のワルツ」
- シュトラウス2世: アンネン・ボルカ
- サラサーテ: ツィゴイネルワイゼン op. 20
- シュトラウス2世: ワルツ「春の声」op.410
- エドワルト・シュトラウス1世: ボルカ・シュネル「さあ、逃げろ!」op. 73
- シュトラウス2世: ワルツ「美しく青きドナウ」op. 314

1/11 (水) 19:00開演 ノバホール  
(18:30開場) (茨城県つくば市吾妻1-10-1)

主催: つくば市/ (公財)つくば文化振興財団 共催: 株式会社コンサート・ドアーズ

協賛: 関彰商事株式会社 SEKI//SHO 協力: ACCS/地域情報誌「つくまる」/ラヂオつくば

お問い合わせ  
(公財)つくば文化振興財団 <http://www.tcf.or.jp>

029-856-7007



### ■チケット料金(全席指定)

一般 ¥5,000 / 友の会会員 ¥4,500

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※車椅子席をお求めの場合、ノバホールまでお問合せください。

### ■プレイガイド

(公財)つくば文化振興財団 029-856-7007

ノバホール 029-852-5881

つくばカピオ 029-851-2886

財団ホームページ <http://www.tcf.or.jp>



## 当時のシュトラウスの演奏スタイル「フォルガイガー」を再現!



ウィーンっ子たちの憩いの場所であり、音楽を愛するあらゆる人にとっては音楽の都ウィーンの人気スポット、ウィーン市立公園。園内を散策するとウィーンゆかりの音楽家の像がそこかしこに点在しているのを目にするが、中でも強烈な印象を残すシンボリック的存在が黄金に輝くヨハン・シュトラウス2世像だ。音楽ファンなら誰でも知っている、いや、愛好家でなくても観光ガイドブックのウィーンのページを開けば必ずと言っていいほど登場する、ヴァイオリンを片手に演奏中の、今にも美しいウィナーワルツが聞こえてきそうな、あの像だ。事実、ヨハン・シュトラウス2世の人気ぶりを伝える当時の挿絵などを見ると、ヴァイオリンを演奏しながら少人数の音楽家を指揮している模様が

描かれている。このヴァイオリンを演奏しながら指揮するスタイルを「フォルガイガー」といい、彼が自作自演する舞踏会ではだれもが熱狂し、夜が更けるまで踊り続けたのだった。

そんなことを知ると、ヨハン2世の時代さながらに、当時のスタイルでウィナーワルツやポルカを聴いてみたい! と思ってしまうのが人情だ。そして、そうした願いを叶えてくれるのが、「ウィーン交響楽団ヨハン・シュトラウス・アンサンブル」によるニューイヤーコンサートなのだ。

日頃、ウィーンの空気を吸い、ウィーンの心を知り尽くしているウィーン交響楽団の精鋭メンバーたちを、同交響楽団のコンサートマスター、ソロコフが「フォルガイガー」スタイルで導き、ヨハン2世をはじめとしたウィーン音楽の粋を奏でる——これぞ、音楽ファンにとって、「贅沢の極み」。ヨハン2世のワルツやポルカは高い完成度からその後次第に、人々にとって、踊る音楽から大人数の演奏による鑑賞する音楽へと変化して行くが、それでもなお、彼の音楽は「フォルガイガー」スタイルで、しかも当時そのままに少人数で奏でられるところに「ヨハン2世の思い」「ウィーンの味わい」が出てくると言っている。

「1、2〜、3。1、2〜、3」と同じ3拍子でも、2拍目と3拍目に微妙な「間」が入るウィーンのワルツ。それは演奏家同士の呼吸のやり取りに委ねられると一層、微笑ましさと愛くるしさを増してくる。「ウィーン交響楽団ヨハン・シュトラウス・アンサンブル」のような厳選されたメンバーの演奏は、まさにそうした「心の機微が通いあう音楽」だ。さらに、ウィーン・フォルクスオーパーで活躍しているソプラノ歌手、クラウディア・ゲーベルの歌声も加わり、今回のニューイヤーコンサートは、例年以上に、華やいだものになること間違いなしだ!



アントン・ソロコフ (指揮・ヴァイオリン)

モスクワの音楽一家に生まれ、幼少の頃からその天才ぶりを発揮。13歳ウィーン国立音楽大学に入学。16歳でウィーンコンツェルトハウス、18歳でジョン・ミュンファン指揮でロンドン、20歳でモスクワ音楽院大ホールやウィーン学友会協会デビューし、大成功を収める。数々の国際コンクールに入賞し、ベルリン・フィルなど世界の主要なオーケストラとの共演を重ね、2005年27歳のときにウィーン交響楽団第1コンサートマスターに就任してウィーン楽壇の話題となる。



クラウディア・ゲーベル (ソプラノ)

オーストリア出身のコラトウラ歌手。2011年からウィーン・フォルクスオーパーに所属。「魔笛」パパゲーナ、「フィガロの結婚」バルバリーナ、「こうもり」アデーレ、「パリの喜び」ガブリエルが得意役。フィンランド国立歌劇場、リンツ州立劇場などに出演。コンサート活動では、ウィーン放送交響楽団やヨハン・シュトラウス・フェスティバル・オーケストラと共演を行う。